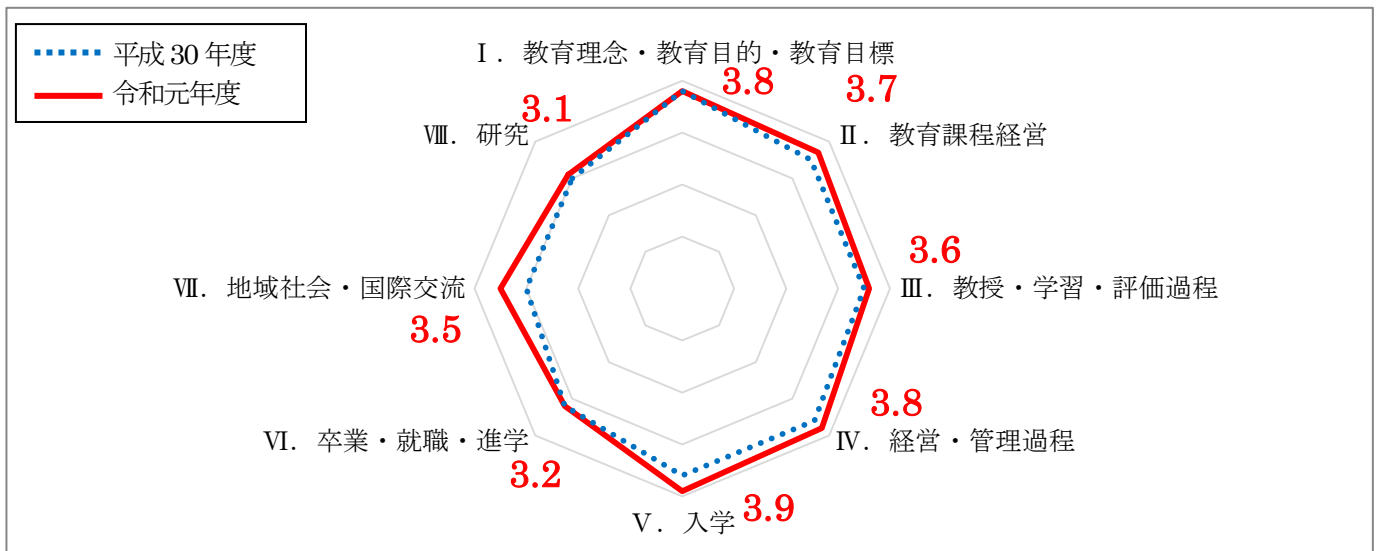


学校関係者評価 結果

1. 平成31年度学校運営目標

- 1) カリキュラム全体像を理解して効果的な運用で質の高い学生を育成する
- 2) 教育実践力が向上するよう自己研鑽し授業研究や研究活動に取り組む
- 3) 昨年度の評価をもとに、次期カリキュラム改正の核となるカリキュラム編成の基本的な考え方と必要な教育内容を検討する
- 4) 設置主体との一貫した考え方にに基づき協働する

2. 岩国医療センター附属岩国看護学校 令和元年度 自己点検・自己評価結果



評価はⅠ～Ⅶの大項目、128の小項目から構成されている。「4」が当てはまる、「3」がほぼ当てはまる、「2」がやや当てはまる、「1」が当てはまらない、となっている。

Ⅰ. 教育理念・目的・目標

評価は3.8と昨年同様であった。年度初めに教育理念・目的・目標を確認して、各クラスの運営を計画した。また、アドミッション・カリキュラム・ディプロマポリシーを明文化して教職員全体で意思統一を行いウェブ上に公表したことが高い評価につながった。

Ⅱ. 教育課程経営

昨年は3.5で今年度は3.7であった。学校運営会議、教員会議、実習指導者・担当者会議、カリキュラム担当者会議などで教育に関する内容を検討してカリキュラムに反映している点が評価された。また、高等教育の修学支援新制度に合わせてシラバスをウェブ上に公表した。カリキュラム改正を見据えて、育てたい学生像など検討中であり今後は具体的な教育内容など検討していく。

Ⅲ. 教授・学習・評価過程

昨年は3.5で今年度は3.6であった。年度初めの講師会議において授業評価の内容から「学生の主体性」を重視する教育方法に関して各講師に伝えた。そして、シラバスに示している科目評価について詳細な内容と割合を示し学生に提示した。また、教員課程の教育実習を1件、他校の新任教員の授業見学を2件、合計3件の研究授業を実施した。研修への参加はシミュレーション研修や看護過程の研修に参加し、成果（延べ11名）を各講義で活用した。

Ⅳ. 経営・管理過程

昨年は3.6で今年度は3.8であった。今年度は教員会議において「業務改善」を定期的に話し合うなどして、集中して業務を行える時間確保の取り組みなどを行い、超勤時間が平均11.1時間/月から8.95時間/月に減少し、年休取得が平均1.4日/月となり効率化を図ることができた。また、働き方改革と合わせて実習指導が効率的にできる勤務管理など健全な学校運営に努めた点が評価された。その他に、学生数の維持なども評価された。

3年間での卒業率は留年者や退学者が年々増えており90%維持が困難である。支援として学習環境の整備や放課後の支援、カウンセリング11件（1月時点まで）を行っている。

V. 入学

昨年は3.6で今年度は3.9であった。入試の適正な実施と入学者選抜の妥当性が評価された。

VI. 卒業・就職・進学

評価は3.2と昨年同様であった。県内就職者率は49.3%から51.5%に増加。機構就職率は57.3%から66.7%に増加した。県内の医療従事者育成に貢献し、高い就職率を確保できている。

VII. 地域社会／国際交流

昨年は3.0で今年度は3.5であった。在宅看護論実習等の院外実習の機会を通して、地域のニーズを把握する取り組みを継続している。また、岩国市や福祉協議会など公共施設からのボランティア要請も増え昨年の9か所から11カ所のボランティア活動（約62名→67名+α）に参加した。米軍クリニックとの交流会も継続しており、積極的に活動している点も評価された。入学者に関しては、昨年同様に少子化の影響を受け、学生確保には苦慮している。指定校中心に学校訪問の計画的な実施を行い、推薦入学受験者は微増し、全入試の受験者数の維持ができた。進路ガイダンスは昨年17回参加したが、今年度は15回と参加回数は減少したがオープンスクール参加者は募集活動の成果から203名から287名に増加しており、受験者の58%がオープンスクール参加者であり、少子化の中でも入学者確保に努めている点が評価された。

VIII. 研究

昨年は3.0で今年度は3.1であった。今年度の研究発表数は横ばいだが教員研究助成金を活用して施設を超えた領域別の教員研究活動は継続しているため、来年度発表することが課題である。

3. 外部委員からの意見

昨年度より評価が上昇したことは職員の努力があった。授業時間の確保については研究発表成果と関連がある。働き方改革が言われる中、職場内で当然職場ルールになっていることの中に無駄が潜んでいる。客観的に俯瞰して業務の見直しをおこなってみるとよい。